

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900011		
法人名	株式会社 ファミリーホームなか		
事業所名	グループホームきぬの里		
所在地	真岡市中313-3		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanr.i.nsf/aHyokaTop20
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
書面調査日	令和3年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が日々穏やかに心豊かに過ごせるよう、一人ひとりの生活歴・性格・思いを十分把握し入居者の立場に立った支援に努めています。コロナ禍の状況でなければ、地域との交流においても小中学生や高校生の訪問、地域の行事や運動会などへも参加、ボランティア活動も活発に行っていたり地域からの暖かい協力や支援を頂いています。施設内においては外出が厳しい中、四季折々に応じた行事を行い、また天気の良い日には近くを散歩したり、ドライブなどで気分転換を兼ねて入居者と共に楽しんでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・3ヶ月に1回、身体拘束委員会を行っている。会議では夜間の居室施設や玄関ドアの施設、利用者に対する言葉遣いなど、日頃の疑問を話し合っ解決策を出している。
 ・コロナ禍のため、家族との面会を中止にして、電話やメールで意見を聞いている。隔月発行の広報紙を毎月に変更して利用者の様子を家族に伝えている。
 ・事業所内で調理した料理が提供されている。献立に合わせて陶器の食器を使用したり、事業所内の畑で収穫した野菜などを料理に加えて提供している。コロナ禍で外食に出掛けられないため、利用者好みをお弁当を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で家族とのつながりを大切にその人らしい生活ができるように支援していくことを基本理念として、玄関に大きく掲げ実践している。	理念である「住み慣れた地域の中で家族とのつながりを大切にその人らしい生活ができるように支援する」について、ミーティングなどで振り返る機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の現状によりあらゆる行事が中止になってしまったが、それ以前は地域のミニデイや行事への参加、地域ボランティアの方の協力や支援を受けている。	今までは2ヶ月に1回の頻度で自治会のミニデイサービスや地域の行事に参加していたが、コロナ禍で地域との交流は中止している。ケーブルテレビの「いちごチャンネル」を契約して、利用者が地元である真岡市の情報を得られるようにしている。	コロナウイルス終息後に、ボランティアなどの受入れ再開を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学生の職場体験(マイチャレンジ)、高校生の介護実習の受け入れや、地域ボランティアとの交流により認知症の理解や支援方法に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会を2か月に一回開催し、運営管理、入居者の処遇状況、主な行事などを報告し、入居者代表、家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し意見を頂き、サービスの向上に活かしているが、コロナ禍の現状は開催せずに施設の状況を報告させていた	運営推進会議の参加者は、地域包括支援センターの職員や家族、自治会区長、理事長、施設長、職員などである。会議では事業所の状況や行事の予定・報告が伝えられている。今年度はコロナ禍のため参加者に書面報告となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター職員が運営委員会に参加しており、施設の運営状況や入居者の生活の様子を把握してもらっている。制度上の相談なども含め協力関係を築いている。	市の担当者には、事業所の空き状況の報告を行ったり、コロナウイルス対策の情報を収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回、身体拘束委員会を開催しすべての職員が身体拘束について具体的な行為を理解し合い、知識を共有し入居者が抱えている不安や混乱の要因を模索しながら拘束のないケアを実践している。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を行っている。会議では夜間の居室施錠や玄関ドアの施錠、利用者に対する言葉遣いなど、日頃の支援の疑問を話し合って解決策を出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会において虐待防止について学び、理解を深めている。日頃から声掛けや言葉使いには職員間でお互いに注意し合える関係を作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を通して学び理解し必要時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時にはグループホームの趣旨を説明し不安や疑問が生じないように確認し理解納得のもと同意を得ている。利用中の料金改定は個別に説明し書面に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情受付窓口や外部の苦情受付機関を明記する他、家族が来所した時には挨拶に伺い意見や要望の確認に努めている。また、玄関に意見箱を置き、意見や要望を伝えられる環境作りに取り組んでいる。	コロナ禍のため、家族との面会を中止にして、電話やメールで意見を聞いている。隔月発行の広報紙を毎月に変更して利用者の様子を家族に伝えている。利用者からは日頃の支援の中で意見を聞いている。	コロナ禍で面会の制限となっているが、手紙や電話以外のテレビ電話などでの話しができる環境整備に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング、毎朝の申し送り時には職員からの意見や提案等を確認している。それぞれの職員が意見を提案しやすい環境が作れている。	施設長は月一回のミーティングや申し送り時に、職員の意見を聞いている。また、職員からの意見を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員と話し合う機会を持ち、個々が施設内の状況を把握し各自が向上心を持ち働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の勉強会を通してケアの向上に取り組んでいる。県や市からの研修案内を検討し、認知症実践者研修など毎年申し込んでいる。研修報告書は回覧して知識の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。各研修に参加した職員は研修先で同業者と交流を持つ機会がある。地域の同業者と情報交換や交流がもてるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問し本人、ご家族と面談を行ったり入居前に施設に来所していただき本人から不安や要望を聴く機会を設けている。入居後も情報収集を行い職員が周知することで本人が安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問して面接を行ったり入居前にご本人と共に来所していただき要望等を聞く機会を設けている。傾聴し話をしやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時のアセスメントや担当ケアマネジャーからの情報提供なども踏まえ、本人やご家族の状況や環境等を十分に把握し、今何が必要かを見極め他のサービスも含め検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のこれまでの生活の背景を考慮し、経験(家事、畑仕事など)や特技が活かせるような環境に努めている。人生の先輩から教えていただくことは多く共に学び支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはそのつど日常の様子や健康状態を報告させていただいている。2か月に一度施設からの広報誌を居室担当職員からもご家族へ定期的にお便りを郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で自宅周辺や馴染みの土地を訪れたり、ご家族の協力で馴染みの美容室や墓参りなどに出かけている。知人や親せきの方の訪問もあるが今は面接もお断りしている現状である(コロナ禍の為に)	以前は知人や親せきの方の訪問や馴染みの美容室、墓参りなどに出かけていたが、コロナ禍で中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作りやレクリエーション、行事などをい通してそれぞれの役割が持てるように支援している。入居者同士の性格や愛称を考慮しテーブル席の配置を工夫したり、孤立しないように職員が間に入り日々の生活が楽しく過ごせるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業所等関係機関へ情報提供を行ったリ転居先へ必要な情報を提供している。本人また家族への相談にのり支援できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で見守りや確認、表情やしぐさ、コミュニケーションをたくさんとることで本人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が難しい入居者へは家族からの情報や生活歴から本人本位に検討している。	日々の支援の中で、利用者一人ひとりの意向を聞いている。意向は職員間で共有して実行できるようにしている。意向を伝えることが難しい利用者は、本人の表情や家族から聞き取りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所関係機関や居宅担当ケアマネジャー、本人家族に確認を行い把握している。情報を基に馴染みのある家具装飾品、身の回りの物を継続することでその人らしく生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態等を職員が確認し本人の有する力が発揮できる場面づくりに努めている。日々の記録や申し送り等から職員間で情報共有し現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの実践を記録しニーズの把握に努めている。本人、家族、ケアマネジャー、担当職員が話し合い介護計画作成に活かしている。	介護計画は今までの経過も踏まえ、現状に即して本人・家族や職員の意見を聞いてケアマネジャーが作成している。また、定期的にモニタリングを行い状況に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の健康状態はもちろんのこと日々の変化を個別に記録している。情報共有できるように連絡帳を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化など、隣接の小規模多機能の看護師と連携、協力体制ができています。家族の状況において通院や送迎など柔軟に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍になるまでは地域のミニデイや行事などへの参加などで楽しむことができていた。2か月に一度訪問理容でカットができていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へは家族と受診できている。その旨、日常の状況を伝えたり必要に応じて医師への情報を提供し連携をとりながら支援している。	入居後も今までのかかりつけ医を継続することができる。受診の際にケアマネジャーが医師に身体状況を文章にして提供している。緊急時や家族の対応が困難なときは、ケアマネジャーや施設長が受診対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師の配置がない為、併設である小規模多機能の看護師に相談できる体制作りが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連携し情報交換しながら安心して治療ができるようなかかわりを持っている。退院後もサービスが円滑に再開できるように医療機関から情報を提供してもらいよいケアができていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ重度化した場合の対応等を説明、希望を聞き重度化した場合は家族や本人の意向を尊重し早い段階から主治医等とも相談して施設ができる最善の支援を検討し希望にそった対応に努めている。	契約時に事業所で「出来ること、出来ないこと」を家族に説明している。家族は、主治医や関係機関と連携して入院や他施設の住替えなどを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の応急手当、初期対応を具体的に記したマニュアルを職員がいつでも目にしやすい場所に掲示し職員全員が周知できるように努めている。また定期的な勉強会でスキルアップを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。夜間想定も含み避難訓練や通報訓練を実施、消防署立ち合いのもと指導やアドバイスをいただいたり地域の区長の協力を得ている。災害時に備え備蓄品も確保できている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練や通報訓練を実施している。職員は非常災害対策計画や避難確保計画に従い、行動できるようにしている。災害時には近隣に住む自治会区長にも協力が得られる体制が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉使いは気を配り尊重を忘れずに支援するよう職員間で心がけている。写真の掲示なども家族の了承を得てから掲示している。	利用者のプライバシーが侵害されないように、写真の掲示は本人・家族の許可を得ている。利用者に対しては、丁寧語で話すように努めている。職員が感情的に大きな声での支援になってしまった時には、職員間で注意し合えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が言えるように常にコミュニケーションや傾聴を行い自己決定ができるように本人にわかりやすく伝えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の思いに添い職員はその日に行うレクリエーション等の声掛けを行うが参加するかは本人の希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな化粧品などを持参していただいたり、着替えの際は本人と一緒に選ぶなどその人らしく生活が継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの行事食や手作りおやつを提供し楽しみを持てるように支援している。野菜の切り込みや片付けや食器洗浄などできることを一緒に行っている。	事業所内で調理した料理が提供されている。献立に合わせて陶器の食器を使用したり、事業所内の畑で収穫した野菜などを料理に加えて提供している。コロナ禍で外食に出掛けられないため、利用者に好みを聞いてお弁当を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計画された献立を利用し栄養のバランスのとれた食事、その都度本人の状態に応じた食事形態を提供している。食事摂取量や水分摂取量を記録し水分不足にならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯の手入れなど個々の能力に応じた支援を行っている定期的に訪問歯科を利用し専門的なアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとり自尊心を大切に必要に応じて声掛け誘導を行いトイレでの排泄を行っている。職員間で排泄チェック表を用いデータ日常の観察を通して一人一人の排泄リズムを把握しトイレでの排泄、自立支援に努めている。	職員は排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレでの排泄支援に努めている。便秘対策として、牛乳やヨーグルト、バナナ、オリゴ糖など試して自然排便ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽体操など適度な運動を行っている。また便秘症の方へはプルーンやオリゴ糖入りの飲み物などを提供し自己排便を促せるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調や入浴の希望を確認し本人の意向に添い無理強いせず声掛けや誘導を行いその方のペースに合わせて入浴を楽しんでいただけるように支援している。	利用者は週に3回入浴している。入浴を拒否される利用者には時間をずらしたり、職員を変えるなどの対応をしている。寒い時期はエアコン以外にもヒーターを使用し、浴室と更衣室の温度差をなくして安全な入浴環境が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は本人が好きな時に休めるようにベッドメイキングして清潔を心がけている。夜間の不穏時には飲み物の提供や傾聴し安眠できるように支援している。一人ひとりの生活習慣を把握しストレスのない安心した休息がもてるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書を個人記録にファイルし職員全員が共有し理解している。内服前に投薬チェックをダブル確認し誤訳のないように努めている。一人一人の状態に応じて主治医へ情報提供し服薬支援が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や趣味、できることを把握し経験や知恵を発揮していただいている。その方の生活にあった日常が過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になる前は外食に行ったりや買い物に同行したり、地域のミニデイや行事にも参加することができていた。	利用者はデッキに出て日光浴したり、職員と一緒に近くを散歩している。コロナ禍のため外出は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の困難な方が多い為、施設でお小遣いを預かり外出時の買い物や散髪代、日用品など購入している。コロナ禍以前には一緒に買い物に行き購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎは行っている。コロナ禍で面会も制限している状況なので電話で家族とのやりとりができるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事や写真、本人の作品、職員と共に作成した貼り絵などを展示してみなさんと和やかな会話が持てるように努めている。温度管理や換気、湿度など気を配り快適に過ごせるように努めている。	ホールには、職員が季節に合ったものを掲示している。玄関には季節の花が飾られ、利用者は季節を感じることができる。温度管理や換気、湿度など快適に過ごせるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス、テーブルの配置を配慮し好きな場所自由に過ごせるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具や生活用品を使用したり写真やご自身の作品を飾ったりその人らしく心地よく過ごせるように支援している。テレビや仏壇等個々にあった生活空間作りをしている。	利用者は自宅で使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込むことができる。居室内には、本人の写真や誕生日のメッセージカードなどが飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手すりやイスを配置し安全な環境作りをしている。一人ひとりが出来ること理解できることを把握しその方の能力に応じた行動の見守りを行い自立支援に努めている。			